
「日本博」オープニング・セレモニー
／ 主なラインナップ
(令和2年1月15日現在)のご案内

文化庁参事官（芸術文化担当）付新文化芸術創造活動推進室

日本芸術文化振興会 日本博事務局

《日本博とは》

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるものの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する心を表現してきました。

縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能楽や歌舞伎などの伝統芸能、音楽、文芸、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、様々な形で、人間が自然にたいして共鳴、共感する心を具現化し、その美意識を大切にしてきました。

日本の文化は、海外の文化を取り入れながら、時代の変遷とともに多様な文化芸術の創造につなげ発展してきました。日本の自然との関わりの中では、人々の創造性が育まれ、表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会が形成されてきました。先人が創造し、守り伝えてきた多くの文化財や伝統芸能の表現や美意識は、現代の美術、デザインやファッション、マンガ・アニメなどに影響を与え、また、新たな価値や文化の創造につながっています。

日本博は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、総合テーマ「日本人と自然」の下に、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで、更なる未来の創生を目指し、スタートしました。

日本博のプログラムは、文化庁、日本芸術文化振興会、関係府省庁、全国の文化施設、地方自治体、民間企業・団体等の総力を結集し、日本の美を体感する美術展・舞台芸術公演、芸術祭などを、年間を通じ、全国各地で展開していきます。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会が行われる2020年に、これらの日本博プログラムが、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへとつながることを希求します。

《日本博2020年の展開》

日本博は2020年3月のオープニング・セレモニーを皮切りに本格的に始動します。

全国各地において、地域の美術・文化財、伝統芸能、食、自然豊かな環境の中で現代アートや舞台芸術を楽しんでいただける芸術祭など、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の前・中・後を通じて実施する予定です。また、海外から訪問される多くの外国人のお客様が、初めての日本文化を体験し、楽しんでいただける体験型プログラムも多数企画されています。

2020年の日本博では、例えば、日本で数百年前から守り伝えられた国宝・重要文化財をはじめとする優れた美術工芸品の公開や、自然素材を生かした「文化財の修理技術・材料」の紹介、古典と現代を代表するアート作品を組み合わせた展示を行います。

また、自然にちなんだ歌舞伎・能楽・文楽などの伝統芸能の公演、自然と人の関わりを描いた現代のオペラ・バレエの新作公演を企画しています。

古来より多くの作品に自然が描かれた「きもの」を鎌倉時代から現代まで通覧する展覧会、戦後から現代までの「ファッション」の展覧会を行います。

日本の自然の多様性や人々の知恵と工夫の歴史を「和食」を通じて紹介する展覧会、木材・土・石などの自然素材を優れた造形物に発展させてきた、飛鳥時代から現代までの「日本建築」代表作の展覧会を行います。

日本の風土の影響を受けながら伝えられてきた郷土料理の体験や、自然と向き合いながら保存・活用されている寺社・住宅などの建物を実際に訪れて体感していただくことを期待しています。

なお、今回ご紹介する主なラインナップの他、2020年4月には、全国各地で実施される2020年度の新企画が発表される予定です。

[主なラインナップ]

◆ オープニングセレモニー: 式典・記念公演『^{つきゆきはな}月雪花にあそぶ—日本の音と声と舞—』

＜東京国立博物館・前庭、上野公園で関連プログラムを実施＞令和2年3月14日

[我が国の名品を一挙に公開、自然素材を生かした修理の技を知る]

- ◆ 特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」 ＜東京国立博物館・本館 特別4室・特別5室＞ 令和2年3月13日～5月10日
- ◆ 特別展「聖地をたずねて-西国三十三所の信仰と至宝-」 ＜京都国立博物館＞令和2年4月11日～5月31日
- ◆ 特別展「^{みやこ}京の国宝—守り伝える日本のたから—」 ＜京都市京セラ美術館＞令和2年4月28日～6月21日
- ◆ 「京都の美術 250年の夢」 ＜京都市京セラ美術館＞令和2年3月21日～12月6日
- ◆ 杉本博司 瑠璃の浄土 ＜京都市京セラ美術館＞令和2年3月21日～6月14日
- ◆ 古典×現代2020—時空を超える日本のアート ＜国立新美術館＞令和2年3月11日～6月1日
- ◆ 特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」 ＜東京国立博物館＞令和2年7月14日～8月30日
- ◆ 特別展「工芸 2020—自然と美のかたち—」 ＜東京国立博物館＞令和2年10月6日～11月29日
- ◆ 日本の自然と書のかたち「日本の書200人選～東京 2020 大会の開催を記念して～」
＜国立新美術館＞令和2年2月4月25日～5月10日

[日本の「衣食住」を通観し、自然と対話する]

- ◆ 特別展「きもの KIMONO」 ＜東京国立博物館＞令和2年4月14日～6月7日
- ◆ 特別展「ファッション イン ジャパン1945—2020—流行と社会」 ＜国立新美術館＞令和2年6月3日～8月24日
- ◆ 特別展「和食 ～日本の自然、人々の知恵～」 ＜国立科学博物館＞令和2年3月14日～6月14日
- ◆ 特別展「日本のたてもの—自然素材を伝統技術に活かす知恵—」
＜東京国立博物館・国立科学博物館・国立近現代建築資料館＞令和2年12月末～令和3年2月予定
- ◆ 丹下健三と日本の近代建築 ＜国立近現代建築資料館＞令和2年7月11日～9月22日
- ◆ 隈研吾展 ＜東京国立近代美術館＞令和2年7月17日～10月25日

[自然にちなんだ伝統芸能、自然との関わりを描いた現代舞台を観る]

- ◆ 特別展「体感！日本の伝統芸能 —歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」
＜東京国立博物館＞令和2年3月10日～5月24日
- ◆ 歌舞伎、文楽、能楽ショーケース・手話狂言、Discover シリーズ 能楽、文楽、組踊
＜国立劇場、国立能楽堂、国立文楽劇場、国立劇場おきなわ＞令和2年3月～10月
- ◆ 清流の国ぎふ 2020 地歌舞伎勢揃い公演 ＜岐阜市＞ 令和2年1月～7月
- ◆ 子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」 ＜新国立劇場＞令和2年8月22,23日
- ◆ 新国立劇場 こどものためのバレエ劇場 2020「竜宮 りゅうぐう」～^{とき}亀の姫と季の庭～＜新国立劇場＞令和2年7月25日～28日

[自然の中で文化を味わう]

- ◆ 企画展「国立公園展」(仮称) / 全国の国立公園への^{いざな}誘い ＜国立科学博物館＞令和2年8月～10月予定
- ◆ 越後妻有 雪花火 2020 / Gift for Frozen Village 2020 ＜新潟県十日町市＞令和2年2月29日
- ◆ 芸術を生み出す縄文文化体感プログラム ＜新潟県十日町市＞令和2年6月～(予定)

[メディア芸術に描かれる自然に向き合う]

- ◆ MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020 ＜国立新美術館＞／令和2年7月～9月
- ◆ Media Ambition Tokyo2020(MAT2020)
＜東京都内各地(メイン会場:渋谷スクランブルスクエア、六本木ヒルズ、上野公園)＞

[多文化共生・共生社会と自然]

- ◆ アイヌ文化魅力発信プロジェクト ～ アイヌが歩む。アイヌと歩む。～ ＜ウポポイ、北海道各地ほか＞ 令和元年～
- ◆ 2020 東京大会・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルー2020 グランドオープニングー 令和2年2月7日～

「日本博」2020 オープニング・セレモニー

記念式典・記念公演『^{つきゆきはな}月雪花にあそぶー日本の音と声と舞ー』

＜東京国立博物館本館前庭＞ 令和2年3月14日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けていよいよ本格的に始動する日本博 2020。その幕開けとしてオープニング・セレモニーを開催します。

第1部記念式典に引き続き、独立行政法人日本芸術文化振興会制作による第2部記念公演^{つきゆきはな}『月雪花にあそぶー日本の音と声と舞ー』では、歌舞伎・能・文楽・雅楽・琉球芸能・合唱など多くの舞台芸術が、東京国立博物館本館前庭に設営された特設舞台に集います。

谷川じゅんじ氏による空間演出のもと、ビジュアルデザインスタジオ WOW による映像テクノロジーやプロジェクション・マッピング、アーティスト小松宏誠氏によるゆりの木のインスタレーションなどと一緒に、日本の自然に育まれ、技を磨いてきた芸能の華が一斉に咲き競います。

この舞台は、上野公園竹の台広場（噴水広場）において同時開催される「メディアアンビシヨントウキョウ 2020」でもライブ・ビューイングでお楽しみいただけます。「日本の美」のエッセンスに酔いしれる、一夜かぎりの春の宴です。お気軽にご参加ください。

- ・ 日時： 令和2年3月14日(土)18:00 開始
※当日は、東京国立博物館は夜間 21 時まで開館(入館は 20 時 30 分まで)
- ・ 会場： 東京国立博物館 本館前庭、上野恩賜公園大噴水広場
- ・ 主催：文化庁、日本芸術文化振興会

セレモニー内容／主な出演者等

【出演者】

第1部 記念式典(約 30 分)

- ・ 《アイヌ古式舞踊》「鶴の舞」公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・ ミュージカル『刀剣乱舞』刀剣男士(髭切／膝丸)

第2部 記念公演 月雪花にあそぶー日本の音と声と舞ー(約 45 分)

- ・ 《笙》 宮田まゆみ
- ・ 《日本舞踊》 尾上 紫
- ・ 《胡弓》 川瀬露秋
- ・ 《声明》 天台聲明 七聲會
- ・ 《能》 観世清和
- ・ 《尺八》 ジョン・海山・ネプチューン
- ・ 《文楽》 豊竹呂太夫 鶴澤清介 桐竹勘十郎
- ・ 《琉球歌三線》 新垣俊道
- ・ 《合唱》 三澤洋史 新国立劇場合唱団
- ・ 《歌舞伎》 尾上菊之助

【スタッフ・関係者等】

- ・ 《構成・演出》 大和田文雄
- ・ 《空間演出》 谷川じゅんじ (JTQ inc.)
- ・ 《映像演出》 WOW (映像作家)
- ・ 《樹木演出》 小松宏誠 (アーティスト)
- ・ 《音楽監修》 新内多賀太夫
- ・ 《技術監督》 横沢紅太郎
- ・ 《舞台・照明・音響・美術・舞台監督》
日本芸術文化振興会(国立劇場)
- ・ 《制作》 日本芸術文化振興会
新国立劇場運営財団
国立劇場おきなわ運営財団



「日本博」2020オープニング・セレモニー会場イメージ ～東京国立博物館本館前庭～

伝統芸能 × テクノロジーアート

掛け合わせにより生まれる新たな視点・表現で、日本の伝統の魅力を再構築



ユリノキ演出

東博のシンボルであるゆりの木をアーティスト小松宏誠が装飾演出、周囲に照明装置を配置し舞台、映像と連動し没入感を演出。



プロジェクションマッピング/照明演出

舞台後方の東博本館にプロジェクションマッピングを実施、舞台進行と連動した空間演出を実現



上野公園側イメージ

日本博主なラインナップ

＜我が国の名品を一挙に公開、自然素材を活かした修理の技を知る＞

特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」

＜東京国立博物館・本館 特別4室・特別5室＞ 令和2年3月13日(金)～5月10日(日)

世界遺産・法隆寺。その西院伽藍の中心をなし、世界最古の木造建築である金堂には、およそ1300年前の飛鳥時代に描かれた壁画がありました。令和2年は、法隆寺金堂の火災をきっかけに、1950年に文化財保護法が成立してから70年となる節目の年です。本展では、「法隆寺金堂壁画」の優れた模写や、焼損後に再現された現在の壁画、そして日本古代彫刻の最高傑作の一つである国宝・百済観音など金堂ゆかりの諸仏を展示します。法隆寺金堂の美の世界を体感していただくとともに、文化財を保護し継承することの大切さを伝えていきます。



法隆寺金堂壁画(模本) 第6号壁 阿弥陀浄土図
桜井香雲模 明治17年(1884)頃
東京国立博物館蔵
展示期間: 4月14日(火)～5月10日(日)



西国三十三所 草創1300年記念

特別展 聖地をたずねて—西国三十三所の信仰と至宝—

＜京都国立博物館＞ 令和2年4月11日(土)～5月31日(日)

西国三十三所は、718年、大和国長谷寺の徳道上人が閻魔大王から「生前の悪行により地獄へ送られる人々が多い。観音霊場へ参ることで功德が得られるよう、人々に観音菩薩の慈悲を説くように」とお告げを受け、起請文と三十三の宝印を授かったことにはじまるといわれています。徳道上人が極楽往生の通行証となる宝印を配った場所が観音霊場を巡る信仰となりました。総距離は約1000kmに及び、和歌山県、大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、岐阜県にまで広がる33の札所を巡る、日本最古の巡礼路です。展覧会では、草創から1300年を記念して、西国三十三所の国宝、重要文化財や七観音など、観音信仰と共に大切に守り伝えられてきた至宝を公開します。



国宝 粉河寺縁起絵巻(部分) 平安時代(12世紀)
粉河寺(和歌山)蔵



[京都・岡崎地区で実施]

京都市京セラ美術館のリニューアルオープンを記念に、京都にゆかりのある平安時代から現代までの優品を京都市、文化庁、日本芸術文化振興会の連携で展覧します。

特別展「^{みやこ}京の国宝—守り伝える日本のたから—」

＜京都市京セラ美術館・本館北回廊2階＞ 令和2年4月28日(火)～6月21日(日)

古代より育まれてきた日本人の自然への畏敬の念や美意識等を、平安時代から江戸時代までにわたる絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、歴史資料等の幅広い分野の京都ゆかりの国宝約40件と、京都に関係の深い皇室の名宝をたどって通覧する展覧会です。また、文化財の保存活用に必要不可欠な文化財修理、修理材料の確保や修理技術の継承、模写・模造製作を通じた技術の復元等の取組を紹介します。



国宝 木造梵天坐像(教王護国寺所蔵)(提供 便利堂)



「太刀 銘久国」(文化庁所蔵)

京都市京セラ美術館開館記念展『京都の美術 250 年の夢』

＜京都市京セラ美術館・本館北回廊1階＞ 令和2年3月21日(土)～12月6日(日)

明治維新から100年を遡った江戸後期の「京都の美術」を綺羅星のごとく輝く伊藤若冲、与謝蕪村、池大雅、曾我蕭白、円山応挙、松村呉春、長澤芦雪にはじまり、明治から昭和にかけて、東京画壇に対抗する京都画壇を隆盛させた竹内栖鳳、上村松園、土田麦僊、村上華岳など、そして戦後から現代にかけては伝統を受け継ぎ革新的な日本画を描いた小野竹喬、福田平八郎、堂本印象、池田遥邨などに至るまで、日本画の代表作家を中心に、同時代に活躍した工芸家たち、明治期に登場した洋画家や彫刻家たち、さらには戦後における現代美術の若き作家たちを加えて、「京都の美術」の250年の歴史を彩った総計400点を越える名作を3部構成で展示します。

会期:「最初的一步:コレクションの原点」:令和2年3月21日(土)～4月5日(日)

「第1部 江戸から明治へ:近代への飛躍」:令和2年4月18日(土)～6月14日(日) 前期・後期

「第2部 明治から昭和へ:京都画壇の隆盛」:令和2年7月11日(土)～9月6日(日) 前期・後期

「第3部 戦後から現代へ:未来への挑戦」:令和2年10月3日(土)～12月6日(日) 前期・後期

※第3部のみ北回廊1階、2階



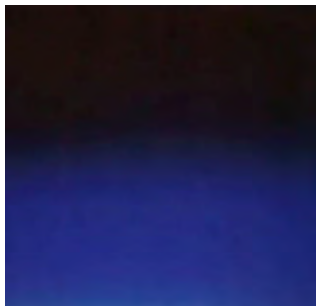
曾我蕭白《群仙図屏風》 1764年 文化庁蔵 重要文化財

第1部 江戸から明治へ：近代への飛躍 前期展示（2020年4月18日～5月17日）

京都市京セラ美術館開館記念展「杉本博司 瑠璃の浄土」

＜京都市京セラ美術館・新館 東山キューブ＞ 令和2年3月21日(土)～6月14日(日)

杉本博司は、1970年代より、大型カメラを用いた写真作品を制作し、世界的に高い評価を受けてきました。また、古今東西の古美術などの蒐集、建築、舞台演出など幅広い創作活動を行い、時間の概念や人間の知覚、意識の起源に関する問を探究し続けています。今回、かつて6つの大寺院が存在していた京都・岡崎の地に立つ京都市京セラ美術館が再生されるにあたり、「瑠璃の浄土」のタイトルのもと、仮想の寺院の荘厳を構想します。世界初公開の大判カラー作品シリーズ「OPTICKS」や、ガラスにまつわる作品、考古遺物などが展示されます。また、日本庭園には《ガラスの茶室 聞鳥庵》がヴェニス、ヴェルサイユでの展示を経て日本で初めて公開されます。



杉本博司《OPTICKS 008》2018年
© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of
Gallery Koyanagi



《法勝寺 瓦》平安時代末—鎌倉時代初期 撮影：小野祐次



《ガラスの茶室 聞鳥庵》ヴェルサイユ宮殿での展示風景、2018年
©Hiroshi Sugimoto
Architects: New Material Research Laboratory / Hiroshi Sugimoto + Tomoyuki Sakakida.
Originally commissioned for LE STANZE DEL VETRO, Venice / Courtesy of Pentagram Stiftung
& LE STANZE DEL VETRO. The image is from the exhibition "SUGIMOTO VERSAILLES"
organized by Palais de Versailles.



『三番叟』
写真提供：小田原文化財団 © Odawara Art Foundation

杉本博司プロデュース 能楽『月見座頭』『三番叟』
会場：ロームシアター京都／公演日：令和2年4月25日（土）
企画・舞台構成：杉本博司 出演：野村万作、野村萬斎ほか

国立新美術館 <古典×現代2020—時空を超える日本のアート>

<国立新美術館> 令和2年3月11日(水)～6月1日(月)

国際的な注目が東京に集まる2020年に、古い時代の美術と現代美術の対比を通して、日本美術の豊かな土壌を探り、その魅力を新しい視点から発信する展覧会を開催します。

展覧会は、江戸時代以前の絵画や仏像、陶芸や刀剣の名品を、現代を生きる8人の作家の作品と対になるよう組み合わせ、一組ずつ8つの展示室で構成します。古典側は曾我蕭白、尾形乾山、円空、仙厓義梵、葛飾北斎ら誰もが知る巨匠の作品や、鎌倉時代の仏像、江戸時代の花鳥画、刀剣の名品を選出。現代側は、川内倫子、鴻池朋子、しりあがり寿、菅木志雄、棚田康司、田根剛、皆川明、横尾忠則ら、今の日本を代表するクリエイターたちの創作を組み合わせ展示します。現代作家の優れた表現と、今なお私たちを惹きつけてやまない古典の名品の時代を超えた比較を通じて、単独では見えてこない新たな魅力を発見する機会です。



葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》江戸時代・19世紀 和泉市久保惣記念美術館 展示期間：5月8日～6月



しりあがり寿《ちょっと可笑しなほぼ三十六景 太陽から見た地球》2017年 作家蔵 展示期間：5月8日～6月10日

大浮世絵展

<江戸東京博物館> 令和元年11月19日(火)～令和2年1月19日(日)

<福岡市美術館> 令和2年1月28日(火)～3月22日(日) <愛知県美術館> 令和2年4月3日(金)～5月31日(日)

2014年に開催した「大浮世絵展」の第2弾。今回は喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳の5人の人気絵師に注目し、その錦絵の代表作を展示。海外美術館の所蔵品を中心に選ばれた優品が勢揃いします。より強く作品の世界観を伝えとともに鑑賞者の心に訴えかけます。世界的に注目される人気絵師の傑作を一堂に会し、美の競演を展開。国内外の傑作から、浮世絵の魅力を伝える展覧会です。本展では、歌麿の美人画、写楽の役者絵、北斎・広重の風景画、国芳の勇壮な武者絵と機知に富んだ戯画と、5人の絵師の得意ジャンルに絞り、「誰もが知っており、そして誰もが見たい」浮世絵展となっています。5人の絵師を紹介する各章が単独の展覧会としても十分見応えがあり、まさに各絵師の展覧会5つが一堂に会したような、豪華な内容となっています。

大浮世絵展

歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演

Five Ukiyo-e Favorites

UTAMARO, SHARAKU, HOKUSAI, HIROSHIGE, and KUNIYOSHI



北斎師弟対決！

くすみだ北斎美術館 > 令和2年2月4日(火)～4月5日(日)

北斎が江戸の浮世絵師を代表するビッグネームであることはよく知られていますが、孫弟子を含めて 200 人にも及ぶ弟子がいたことはあまり知られていません。本展では館蔵品からよりすぐり、北斎と弟子が同じテーマで描いた作品を展示し、両者を比較する中でそれぞれの画風の特徴や影響関係にせまります。本展は 4 つの章となっていますが第 2 章では特に風景を取り上げ「日本人と自然」を感じ、併せて日本の文化を感じていただくことができます。

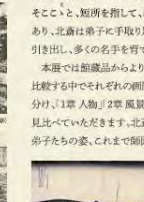





孫弟子含め 200人!?

北斎が、江戸の浮世絵師を代表するビッグネームであることはよく知られていますが、その北斎には孫弟子も含めて 200 人にも及ぶ弟子がいたことはあまり知られていません。浮世絵研究の先駆者、飯島虚心(天保12年(1841)～明治34年(1901))による北斎の伝記『葛飾北斎伝』(蓬軒閣、明治26年)には、「北斎弟子門人多し、悉くとも百数に及ぶことを好まず。其の門人たるを誦ふものは、百箇にし数級の南手本を出たし、尤つ驚かしめ、そここし、短所を指して、教へたるのみ、されど門人中に、名手を出た者多し」との記述があり、北斎は弟子に手取り足取り指南をするタイプではなかったようですが、弟子の能力を引き出し、多くの名手を育てたようです。

本展では館蔵品からよりすぐり、北斎と弟子が同じテーマで描いた作品を展示し、両者を比較する中でそれぞれの画風の特徴や影響関係にせまります。問題ごとに北斎と弟子の作品を分け、「1章 人物」「2章 風景」「3章 動物」「4章 エトセラ」の4つの章で、北斎と弟子の作品を見比べていただきます。北斎の魅力にとどまらず、巨大な師匠を前に自らの道進を模索する弟子たちの姿、これまで師匠の名に隠れていた弟子の作品の魅力もご紹介します。

特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」

＜東京国立博物館＞ 令和2年7月14日(火)～8月30日(日)

墨のみで擬人化した動物や人々の姿を 12 世紀の平安時代に描いた、日本絵画史上屈指の名品「鳥獣戯画」を
展覧会史上初めて、通期で国宝4巻の全場面を展示します。



九州国立博物館開館 15 周年特別展『海幸山幸』（仮称）

＜九州国立博物館＞ 令和2年7月21日(火)～9月13日(日)

海に囲まれ、国土の七割を山林が占める我が国は、海と山の国ともいわれます。この地に生まれた私たちの祖先は、海と山からさまざまな恵みを得て豊かな暮らしを営んできました。海と山は実質的な生活の糧であるとともに、私たちの心の醸成にも大きな役割を果たしてきました。日本人は自然が四季折々に見せるさまざまな表情に心を寄せ、そのわずかな移ろいを察する鋭い感性を育んできました。本展では、海と山をめぐるさまざまな事象から、日本人が自然との共生のなかで育んできた歴史や文化を新たな視点でご紹介し、あらためて日本人の原点に迫ろうとします。



国宝 日月四季山水図屏風（金剛寺）

特別展「工芸 2020—自然と美のかたち—」 及び「工芸と食」プログラム

＜東京国立博物館／地方各地＞ 令和2年10月～

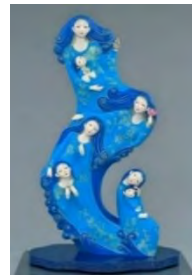
日本の工芸は、自然の様々な素材と技法、そして作家の感性によって創り出されたもので、自然との密接な関わりを特質としています。日本人の精神と「心」を反映する特有の自然観に満たされ、そこにある美を生活の道具やそれを原点に表現されるものに創造して発展してきました。本展では自然の素材と適合したわざを有効に活用して、自然観や自然の美を主題とし独自の創作表現としている現代作家の名品を、国内外で活躍する伊東豊雄氏による自然をテーマにした空間演出で展示することで、工芸のもつ新たな魅力と可能性を紹介します



室瀬和美 《柏葉蒔絵螺鈿六角合子》



春山文典 《宙の響》



奥田小由女 《海から天空へ》



今泉今右衛門 《色絵雪花薄墨墨はじき雪松文蓋付瓶》

日本の自然と書の心

「日本の書 200 人選～東京 2020 大会の開催を記念して～」

＜国立新美術館＞ 令和2年4月25日～ 5月10日

本展覧会は東京 2020 大会の開催を記念し、日本を代表する現代書家 200 人が様々な表現様式によって制作した新作と、力強い障がい者の書や、次世代を担う児童・青少年の書作品を一堂に展示し、併せて代表作家による制作映像の放映や、文房四宝(筆墨硯紙)の展示など、日本の書道文化を総合的に紹介します。また、訪日外国人向けに多言語対応し、席上揮毫やワークショップを交えて、日本の伝統文化であり生活文化でもある書道を国内外に発信します。



展覧会サブタイトル

尾崎邑鵬筆



井茂圭洞筆「大和心」



展覧会タイトル中の「書」

新井光風筆



作品制作風景（黒田賢一）



東日本大震災で被災した

石巻市雄勝町の雄勝硯

東京国立博物館 総合文化展

オリンピック・パラリンピック競技大会の2020年を記念して、東京国立博物館が所蔵する名品を季節を通じて展示します。ぜひご覧ください。



国宝 太刀 古備前包平（名物 大包平）
平安時代・12世紀 東京国立博物館蔵
令和2年6月9日～9月6日 本館5室にて展示



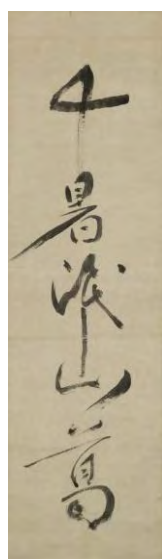
重要文化財 男山蒔絵硯箱
室町時代・15世紀 東京国立博物館蔵 令和2年3月24日～6月14日
本館12室にて展示



国宝 納涼図屏風
久隅守景筆 江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵
令和2年7月7日～8月10日 本館7室にて展示



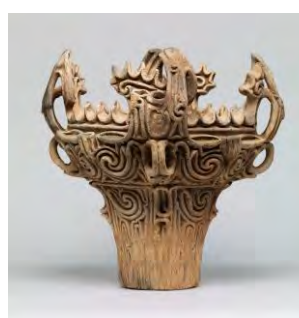
重要文化財 風神雷神図屏風
尾形光琳筆 江戸時代・18世紀 東京国立博物館蔵
令和2年7月7日～8月10日 本館7室にて展示



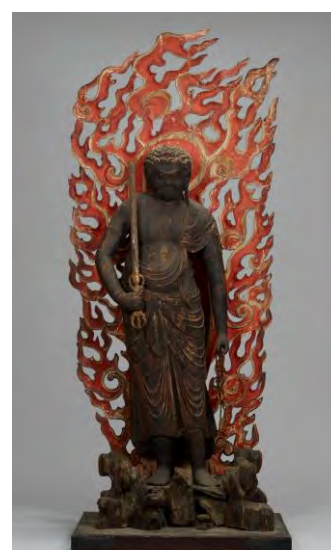
一行書「十暑岷山高」
伊達政宗筆 江戸時代・17世紀 杉山東一氏寄贈
東京国立博物館蔵
令和2年8月12日～9月22日 本館8室にて展示



重要文化財 遮光器土偶
縄文時代(晩期)・前1000～前400年 青森県つがる市木造亀ヶ岡出土 東京国立博物館蔵
令和2年9月8日～2021年2月28日 平成館考古展示室にて展示



火焰型土器
縄文時代(中期)・前3000～前2000年 伝新潟県長岡市馬高出土 東京国立博物館蔵
令和3年1月2日～6月27日 本館1室にて展示



重要文化財 不動明王立像
平安時代・11世紀 東京国立博物館蔵
令和2年9月15日～令和3年4月18日 本館11室にて展示

『三菱創業 150 周年記念 三菱の至宝展』

＜三菱一号館美術館＞ 令和2年7月8日(水)～9月22日(火・祝)

三菱一号館美術館、公益財団法人静嘉堂、公益財団法人東洋文庫は、三菱創業 150 周年、三菱一号館美術館開館 10 周年を記念し、「三菱創業 150 周年記念 三菱の至宝展」を開催いたします。

三菱創業の岩崎家 2-4 代にあたる彌之助、久彌、小彌太は、文化財に多大な関心を抱き、その収集品は現在、それぞれ静嘉堂文庫と東洋文庫に収蔵されています。その収集の態度は単なる実業家の興味にとどまらず、文化財保護、海外流出防止といった社会貢献の色彩を帯びたものでした。本展覧会は、こうした収集の性格を、初代岩崎彌太郎から小彌太に至るまでの三菱4代に渡る事業と社会貢献の歴史をたどるとともに、静嘉堂文庫、東洋文庫、三菱経済研究所の所蔵する国宝、重要文化財を含む仏教美術、書、絵画、美術工芸品、古典籍など貴重な作品群約 100 点余りにより展覧します。また、本展は静嘉堂文庫と東洋文庫が所蔵する美術品と古典籍が一堂に会する、初の貴重な機会となります。



《曜変天目「稲葉天目」》 建窯南宋時代 12～13世紀 国宝

三井家のおひなさま 特別展示 かわいい御所人形

＜三井記念美術館＞ 令和2年2月8日(土)～4月5日(日)

日本橋に春の訪れを告げる「三井家のおひなさま」展。今年も三井家の夫人や娘が大切にしてきたひな人形やひな道具を、一堂に公開いたします。北三井家十代・高棟夫人の苞子(1869-1946)、十一代・高公夫人の^{たかみね}銀子(1901-1976)、高公の一人娘・浅野久子氏(1933 年生まれ)、伊皿子三井家九代・高長夫人の^{もとこ}興子(1900-1980)旧蔵の贅をつくした逸品が並びます。とくに京都の丸平大木人形店・五世大木平蔵が特別に製作した、浅野久子氏の幅3メートル、高さ5段の豪華なひな段飾りは必見です。

展示室6・7では、真っ白な肌とふくよかな体つきが愛らしい御所人形を紹介します。京都の公家に愛され、のちに大名や民間にも普及した御所人形のかわいらしさをぜひご堪能ください。



内裏雛 三世大木平蔵製 明治 28 年 (1895) 三井記念美術館蔵



立雛 江戸時代・文化 12 年 (1815)
三井記念美術館蔵

＜日本の「衣食住」を通観し、自然と対話する＞

特別展「きもの KIMONO」

＜東京国立博物館＞令和2年4月14日～6月7日

日本の美意識を色と模様を表した「きもの」。その原型である小袖(こそで)は、室町時代後期より、染や刺繍、金銀の摺箔(すりばく)などで模様を表し、表着(おもてぎ)として花開きました。きものは、現代に至るまで多様に展開しながら成長し続ける日本独自の美の世界を体現しています。

本展では、信長・秀吉・家康・篤姫など歴史上の著名人が着用したきものや、尾形光琳(おがたこうりん)直筆の小袖に加え、きものが描かれた国宝の絵画作品、さらに現代デザイナーによるきものなど 200 件以上の作品を一堂に展示します。800 年以上を生き抜き、今なお新たなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を、現代を生きる日本文化の象徴として展覧し、その過去・現在・未来を見つめる機会とします。

海外の博物館できものに関する展覧会の開催が予定される中、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館やメトロポリタン美術館との間で出品等の協力をします。

ボストン美術館の名品や、初めて里帰りを果たすアメリカ・メトロポリタン美術館の「誰が袖図屏風」もあわせて展示します。

また本展では、イギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館の学芸員を招聘した国際シンポジウムを開催します。同館において同時期に開催予定の「Kimono: Kyoto to Catwalk」展についてもご紹介する予定です。



重要文化財 小袖 白綾地秋草模様 尾形光琳筆
江戸時代・18 世紀 (東京国立博物館所蔵)



陣羽織 黒烏毛揚羽蝶模様
織田信長所用 安土桃山時代・16 世紀
(東京国立博物館所蔵)



重要文化財
振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様
江戸時代・18 世紀
(東京国立博物館所蔵)



見返り美人図 菱川師宣筆
江戸時代・17 世紀
(東京国立博物館所蔵)

特別展「ファッション イン ジャパン 1945－2020－流行と社会」

＜国立新美術館＞令和2年6月3日(水)～8月24日(月)

「日本のファッション」、あなたは何を思い浮かべますか？

1970年代以降、日本人が生み出した装いの文化は、その独自の展開から世界からも注目されてきました。本展は、そうした豊かな表現を生み出すきっかけとなった明治期以降の社会状況や流行といった現象を発端に、戦後から現在に至るまでの日本のファッションを包括的に紹介する展覧会です。

衣服だけでなく、写真、雑誌、映像といった豊富な資料を通して、流行の発信者と衣服をまとう私たち、そしてその両者をつなぐメディア、それぞれの軸から各時代のファッションを社会現象とともに紐解いていきます。戦中戦後の国民服やもんぺの時代から、国際的に華々しい活躍を見せた日本人デザイナーの作品、日本の若者から発信された Kawaii 文化まで、世界に誇る日本のファッション文化のすべてをご覧ください。



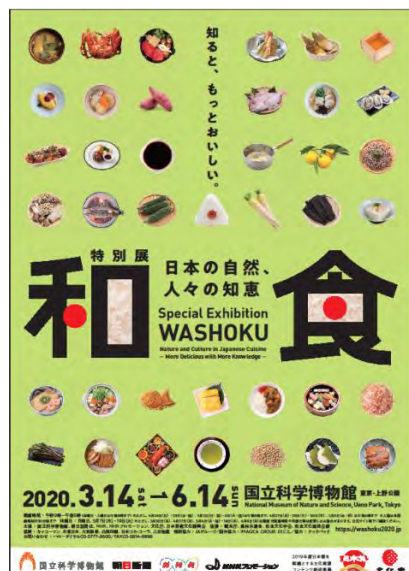
https://www.nact.jp/exhibition_special/2020/fj2020/

<https://fj2020.jp/>

特別展「和食 ～日本の自然、人々の知恵～」

＜国立科学博物館＞令和2年3月14日～6月14日

2013年に「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産登録を受けるなど、「和食」は今世界各地で大きな注目を集めています。本展覧会では、「和食」の魅力を、“日本列島の自然がもたらした多様な食材” “人々の知恵や工夫で作られきた発酵などの技術や調理法” “現代にいたる日本の食の歴史的変遷” などの多角的な視点から掘り下げ、標本・資料等を用いた科学的な解説と、4Kやデジタルアートなどの映像演出でわかりやすく紹介していきます。



背景画像「東都名所高輪二十六夜待遊興之図」(部分)
東京都江戸東京博物館蔵

「日本のたてもの一自然素材を伝統技術に活かす知恵」

＜東京国立博物館・国立科学博物館・国立近現代建築資料館＞令和2年12月末～令和3年2月予定

木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物に発展させてきた日本の建築を主題とし、その要素を高い加工技術で凝縮した「建築模型」に焦点を当て、飛鳥時代から現代までの代表的な名建築を、通史的に概観できる展覧会です。建物の細部や素材の特性を精巧に再現した学術模型を展示するほか、木造建築における技術の解説、建築鑑賞ツアーなどを行い、訪日外国人が日本の建築文化を楽しみながら理解していただけることを目指します。

また、2018年にユネスコ無形文化遺産へ提案された、「伝統建築 工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」に関する解説パネルを設置し、伝承者養成・技能錬磨・原材料や用具の確保など、近年の取組についても紹介します。



東大寺鐘楼（国宝／鎌倉時代）東京国立博物館所蔵



永保寺開山堂（国宝／室町時代）国所蔵



観智院客殿（国宝／江戸時代）国所蔵



三井銀行京都支店（大正3年）
一般社団法人日本建築学会所蔵



旧帝国ホテルライト館（大正12年）株式会社帝国ホテル所蔵



日本橋高島屋（昭和8年）株式会社高島屋所蔵

「丹下健三 1938～1970」展

＜国立近現代建築資料館＞令和2年7月4日～10月11日

丹下健三は、ル・コルビュジエに続いて近代建築運動を推進した世界的な建築家であり、自然、機能、美しさを一体と捉える設計思想のもと、我が国の建築文化を世界水準に押し上げた建築家です。

昭和39年(1964)の東京オリンピックにおける屋内競技場としての代々木の二つの体育館が代表的作品として知られています。

本展では、日本の戦後建築を象徴する建築家丹下健三について、世界的な視野からその在り様と現代への影響を探るとともに、教育講座、作品ツアーや上映会といった普及事業を展開します。



香川県庁舎



広島平和記念資料館

隈研吾展

＜東京国立近代美術館＞令和2年7月17日～10月25日

2020 年東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる《国立競技場》の設計に参画するなど、現代日本を代表する建築家のひとり、隈研吾（1954-）の大規模な展覧会です。2018 年に開館した《V&A ダンディー》（スコットランド）が米 TIME 誌の「2019 年世界で最も素晴らしい場所 100」に選ばれたことに象徴されるように、彼の建築は、人が集まる場所として、世界中の人々を魅了しています。

本展はそんな隈の建築の特徴を、模型や写真によって紹介するだけでなく、先端的な技術を用いたいくつもの映像によって実感できるようにします。展覧会オリジナルとなるこれらの映像の制作には、瀧本幹也など国内外のアーティストが参加。また、識者の協力を得て、隈ならではの東京の未来像を提案する一室が設けられる予定です。



隈研吾《V&A Dundee》2018 ©Hufton+Crow



隈研吾《アオーレ長岡》2012 ©Mitsumasa Fujitsuka

＜自然にちなんだ伝統芸能、自然との関わりを描いた現代舞台を観る＞

ユネスコ無形文化遺産

特別展「体感！日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」

＜東京国立博物館 表慶館＞ 令和2年3月10日(火)～5月24日(日)

本展は、ユネスコ無形文化遺産にも記載された、日本を代表する5つの伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界を、舞台の上から舞台裏まで、まるごと体感していただける体験型展覧会です。展示室では各芸能の舞台を再現し、公演で使用する衣裳、楽器、小道具などを展示。国立劇場等の貴重な公演映像を上映し、展示室に再現した舞台の上で、実演家や舞台を支える職人によるデモンストレーション・トーク等を定期的に行います。来館者が歌舞伎役者になりきれのインタラクティブ展示や、国宝「花下遊楽図屏風」の高精細複製を中心とした幻想的な空間も展開します。



メインビジュアル



※体験型ワークショップイメージ



※展示イメージ

「暫」三代目歌川国貞（国立劇場蔵）

歌舞伎 通し狂言・義経千本桜 (よしつねせんぼんざくら)

＜国立劇場小劇場＞ 令和2年3月3日～3月26日

『義経千本桜』は、延享4年(1747)11月大坂竹本座で人形浄瑠璃として初演され、翌年すぐに歌舞伎でも上演されました。『菅原伝授手習鑑』『仮名手本忠臣蔵』とともに三大名作に数えられ、現在も大変人気のある作品です。「平家物語」や「義経記」など源平合戦の世界を題材に、都を落ち延びる源義経を軸にして、死んだはずの平家の武将、平知盛、維盛、教経が実は生きていたらというフィクションと、初音の鼓を親と慕う狐の恩愛を巧みに絡めて物語が繰り広げられます。二段目「鳥居前」「渡海屋・大物浦」、三段目「椎の木・小金吾討死」「鮎屋」、四段目「道行初音旅」「河連法眼館」を3部に分けて通し狂言として上演します。

尾上菊之助が主人公の忠信・知盛・権太の三役完演に初挑戦、中村時蔵、中村鴈治郎を始め充実の俳優陣が揃います。また、多言語対応として、英語のイヤホンガイドを用意しています。



新中納言知盛(尾上菊之助)



義経千本桜 河連法眼館の場(国立劇場蔵)

文楽 通し狂言・義経千本桜 (よしつねせんぼんざくら)

＜国立文楽劇場＞ 令和2年4月4日～令和2年4月26日(15日:休演)

国立劇場の歌舞伎に続いて、大阪の文楽劇場では人形浄瑠璃文楽で『義経千本桜』を上演します。文楽と歌舞伎で同一演目を見比べられる国立劇場ならではの連携企画です。第一部は、初段「仙洞御所」「北嵯峨」「堀川御所」、二段目「伏見稻荷」「渡海屋・大物浦」、第二部は、三段目「椎の木」「小金吾討死」「すしや」、四段目「道行初音旅」「河連法眼館」の各段を上演します。今回は、11年ぶりの本格的な通し上演となります。多言語対応として、英語のイヤホンガイドも用意しています。



2020 National Noh Theatre Showcase Performances

国立能楽堂ショーケース・手話狂言

＜国立能楽堂＞ 令和2年7月20日～9月5日(下記参照)

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて、国立能楽堂ではこの機会に東京を訪れる国内外の多くの方々に能・狂言の魅力を身近に感じていただけるよう「ショーケース公演」を開催します。「日本人と自然」のテーマにちなんだ代表的な能と狂言の演目を、多言語(日・英・中・韓のパーソナル字幕付き)で、およそ2時間で体感できるコンパクトな内容で、初めてご覧になる方でも気軽にお楽しみいただけます。

また、パラリンピック期間に国立能楽堂主催公演として初めて手話による狂言の上演を実施します。



能「羽衣」



能「安達原」



ロビーでの楽器体験



外観



能舞台

7月国立能楽堂ショーケース

- ・萩大名・猩々：令和2年7月20日(月)～7月21日(火)
- ・棒縛・土蜘蛛：令和2年7月22日(水)～7月23日(木)
- ・附子・羽衣：令和2年7月25日(土)～7月26日(日)

8月 国立能楽堂ショーケース

- ・盆山・清経：令和2年8月26日(水)～8月27日(木)

9月国立能楽堂ショーケース

- ・仏師・安達原：令和2年9月2日(水)～9月3日(木)

9月 手話狂言

- ・佐渡狐・清水・六地藏：令和2年9月5日(土)

Discover NOH & KYOGEN 柿山伏・紅葉狩

＜国立能楽堂＞ 令和2年10月31日

初めて能楽を体験する海外の方が気軽に楽しんでいただけるように、英語解説を冒頭に付け、分かりやすい能と狂言をコンパクトにお見せする公演を多言語(日英中韓のパーソナル字幕付き)でご覧いただきます。演目は晩秋の季節に合わせ、狂言は「柿山伏」、能は信州戸隠山の紅葉のもと、平維茂が不思議な美女と出会う「紅葉狩」を「鬼揃」の華麗な特別演出にてご覧いただきます。

狂言 柿山伏(かきやまぶし) 大藏 教義(大蔵流)

能 紅葉狩(もみじがり) 鬼揃(おにぞろえ) 梅若 紀彰(観世流)

* 字幕あり(日本語・英語・中国語・韓国語)



ロビーでの装束体験

Discover BUNRAKU／大人のための文楽入門

＜国立文楽劇場＞令和2年6月13日(土)・6月14日(日)

訪日外国人をはじめ、初めて文楽をご覧になる方に気軽に楽しんでいただくために、出演者が実演を交えて文楽の魅力を紹介する「解説」と、文楽を代表する名作をご覧いただく入門公演です。DiscoverBunraku では英語による解説、イヤホンガイド(無料)、字幕をご用意します。

二人の三番叟が五穀豊穡などの願いを込めて賑やかに舞う『二人三番叟』と、夏の大坂を舞台に、団七九郎兵衛、一寸徳兵衛、釣船三婦という3人の男とその女房たちの心意気を描いた世話物の名作『夏祭浪花鑑』より、「釣船三婦内」「長町裏」を上演します。侠客が起こした殺人事件を題材にした夏芝居の代表作です。

この機会に、太夫・三味線弾き・人形遣いの演奏・演技が融合した文楽の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。



沖縄の伝統芸能・ユネスコ無形文化遺産「組踊」～300周年の誇りを世界に～

琉球王朝の美～組踊と琉球舞踊、その継承と発信～

＜国立劇場おきなわ＞令和2年3月21日／8月15日／11月21日

組踊上演 300 周年、日本博事業の一環として、3 月に国立劇場おきなわ芸術監督・嘉数道彦氏が書き下ろした新作組踊「春時雨」を上演します。今回が初演となる本作品では、中堅・若手の演者を中心に、現代にも通じるテーマを用い、組踊の新たな可能性を探ります。また、第一部では、伝統の様式をもとに新たな感性を取り入れた創作舞踊の世界を気鋭の女性舞踊家がお届けします。どうぞご堪能ください。

8 月には東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて、日・英・中・韓 4 カ国語のオーディオガイドの無料貸出を行い、誰でも知っている童話「シンデレラ」を組踊版に仕立て直し、観客参加型で、組踊の歴史や約束事を学びつつ、組踊独自のストーリー展開を楽しく学べる「親子のための組踊鑑賞教室」を訪日する家族向けに実施します。

また、11 月には訪日外国人も楽しめるよう 4 カ国語のオーディオガイドの無料貸出を行う公演「Discover KUMIODORI」を上演するほか、様々な事業を実施します。



新作組踊「初桜」(過去の公演から)



親子のための組踊鑑賞教室「組踊版・シンデレラ」



清流の国ぎふ 2020 地歌舞伎勢揃い公演

＜岐阜市＞ 令和2年1/19, 2/15, 3/8, 4/19, 4/26, 5/10, 5/24, 6/7, 6/21, 7/12, 7/19

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年、岐阜県が誇る地歌舞伎がぎふ清流文化プラザに勢揃い。各地で受け継がれる地歌舞伎の魅力をお楽しみください。飛騨高山、下呂温泉、中山道馬籠宿など岐阜県の名所で地歌舞伎(地芝居、農村歌舞伎、素人歌舞伎)の特別公演をご覧いただくことができます。その土地の魅力を生かした特別な趣向をお楽しみください。

岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体があり、全国でも地歌舞伎が盛んな地域のひとつです。

江戸時代から地元の素人役者たちによって神社の祭礼や芝居小屋などで演じられてきた地域に根付いた歌舞伎のことを、岐阜県では地歌舞伎と呼んでいます。岐阜県には歴史ある芝居小屋が9軒現存しているほか、数多くの保存団体が活動し、江戸時代から伝わる演目や振付が今もなお人々の手によって大切に受け継がれ演じ続けられています。

本公演は岐阜県の各地で行われている地歌舞伎が、清流文化プラザに勢揃いし、順次演目を披露するまたとない機会となります。岐阜県を代表する伝統芸能である地歌舞伎を、この機会にぜひご覧ください。



子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ

「Super Angels スーパーエンジェル」

＜新国立劇場＞ 令和2年8月22,23日

新国立劇場が令和2年8月、日本の魅力を世界へ発信する絶好の機会としてお届けする特別企画。「科学技術」「共生」というテーマを織り込んだ新しい舞台作品を通じ、舞台芸術の可能性を広く世に問い、その魅力を国内外にアピールすべく、“子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ”を上演します。

新国立劇場オペラ芸術監督の大野和士が企画し、台本を作家の島田雅彦に、作曲を初音ミクのボーカロイドオペラ『THE END』やアンドロイド・オペラ『Scary Beauty』を手掛ける音楽家・渋谷慶一郎に委嘱。指揮は大野、演出は新国立劇場演劇芸術監督の小川絵梨子が務め、オペラの枠を超えたスケールのコラボレーションを行います。

この新作オペラ『Super Angels スーパーエンジェル』には人工生命搭載アンドロイド「オルタ3」が物語の核となる役で出演し、もう一方の核となる子供たちによる合唱と相互に関わり合いながら歌い、演じて、アンドロイドと子どもたちの交流のドラマを紡ぎます。子どもたちと共に、オペラ歌手と新国立劇場合唱団も出演。管弦楽は東京フィルハーモニー交響楽団が務めます。さらに、新国立劇場バレエ団も参加し、新国立劇場始まって以来のオペラ、舞踊、演劇全ジャンルのコラボレーションが実現します。

未来への共生のメッセージが込められた全く新しいオペラの誕生の瞬間に、どうぞご期待ください。



オルタ3 (Supported by mixi, inc.)

企画監修・指揮：大野和士

台本：島田雅彦

作曲：渋谷慶一郎

演出：小川絵梨子

総合舞台美術（装置・衣裳・照明・映像監督）：針生 康

映像：ウィアードコア

振付：貝川鐵夫

舞踊監修：大原永子

出演：オルタ3、藤木大地、三宅理恵 他

合唱：新国立劇場合唱団

ダンサー：新国立劇場バレエ団

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

「オルタ」シリーズ共同研究：石黒浩、小川浩平、池上高志、土井樹

オルタ3 ソフトウェア設計・開発：升森敦士、丸山典宏、株式会社オルタナティブ・マシン

オルタ3 シミュレーター開発：株式会社ミクシィ、オルタ3 提供：株式会社ミクシィ

統括プロデューサー：木村弘毅（株式会社ミクシィ）、特別協力：東京大学、大阪大学、株式会社ミクシィ、株式会社ワーナーミュージック・ジャパン、株式会社オルタナティブ・マシン

新国立劇場 こどものためのバレエ劇場 2020

「竜宮 りゅうぐう」～^{とき}亀の姫と季の庭～

＜新国立劇場＞令和2年7月25～28日

Japanese Fairy Tale Ballet for all the Family "RYUUGUU – The Turtle Princess"

新国立劇場では、次世代を担うこどもたちが、優れたバレエ芸術に触れられる機会を提供する目的で、2009年より「新国立劇場 こどものためのバレエ劇場」を実施してまいりました。

2020年の夏は、これまでに『サーカス』『NINJA』など、大人もこどもも楽しめるダンス作品を生み出してきた森山開次が、御伽草子の「浦島太郎」をモチーフに、新国立劇場バレエ団のダンサーたちと共に新しいバレエ作品を創り上げ、上演いたします。

豪華絢爛な竜宮城には、愉快的海の生き物たちがいて太郎をもてなし、春夏秋冬の美しい四季が堪能できる不思議な^{とき}季(時)の部屋があります。そして故郷に帰った太郎を待っていた運命とは？

森山開次の手がける日本をテーマにしたバレエ・ファンタジーは、お子さまだけでなく、大人のバレエファンにもきっとご満足いただけることでしょう。



音楽：松本淳一

演出・振付：森山開次

美術・衣裳デザイン：森山開次

映像：ムーチョ村松

照明：櫛田晃代

振付補佐：貝川鐵夫、湯川麻美子

出演：新国立劇場バレエ団

＜自然の中で文化を味わう＞

越後妻有 雪花火 2020／Gift for Frozen Village2020

＜新潟県十日町市＞令和2年2月29日

本プロジェクトでは、山河によって育まれた日本の原風景とも言うべき豊かな里山を舞台に、広大な雪原を「光の種」が彩る、幻想的な光の花畑や、地元の食材で作られた、あたたかな屋台の食事、そして、音楽と花火が共演する、ミュージックスターマインなど、越後妻有から自然の美を世界に向けて発信していきます。



Photo by Ayumi Yanagi



雪見御膳

芸術を生み出す縄文文化体感プログラム

＜新潟県十日町市＞令和2年6月～（予定）

新十日町市博物館が開館する令和2年6月にあわせ、国宝・火焰型土器の出土した遺跡において、縄文時代の食を現代風にアレンジして提供する野外レストランを開設する。同遺跡では、遺跡広場での衣服、弓矢、住居もセットで体験できる。日本人の自然に寄り添って生活することへの美意識と独特な芸術を育んだ縄文文化をトータルに体感できるツアー・プログラムです。



火焰型土器による調理と試食

企画展「国立公園展」と 全国の国立公園への誘い

＜国立科学博物館＞ 全国 34カ所の国立公園 令和2年7月～8月＊展覧会

四季折々に変化する日本の美しい自然と共に生きてきた、日本人の文化景観である全国の国立公園を紹介します。国立科学博物館が所蔵する標本資料や美術館の絵画、映像等により、科学的かつ文化芸術的な側面から国立公園を紹介します。訪日外国人にも分かりやすく多言語（日英中韓）で展示し、環境省が推進する「国立公園満喫プロジェクト」との連携も図りながら、実際に国立公園へと誘う展示を企画します。



中澤弘光「上高地大正池」
（所蔵：小杉放菴記念日光美術館）



大野隆徳「奥入瀬渓流の秋」
（所蔵：小杉放菴記念日光美術館）

「神宮の杜芸術祝祭」 祭る。祈る。創る。ー持続可能な自然 と芸術文化ー

＜明治神宮＞ 令和2年3月20日～令和3年5月

明治神宮創建 100 年にあたり、日本人の自然観を体現した芸術文化を核とする祝祭を開催します。明治神宮の圧倒的な自然の中でオープニング記念として、復興への祈りを表現した野外彫刻展や、東北被災地の民俗芸能公演などを開催するほか、被災地の食、伝統工芸品などを販売します。



神宮の杜芸術祝祭 2020 公式ロゴマーク
2019 撮影：表 恒匡 / SANDWICH



名和晃平 《Throne(g/p_pyramid)》



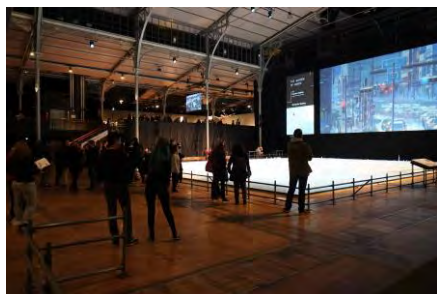
船井美佐 《森を覗く- 山の穴》2013 年

<メディア芸術に描かれる自然に向き合う>

MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020

<国立新美術館・企画展示室 2E> 令和2年7月～9月

東京を描いた日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品を取り上げ、破壊と再生が繰り返された東京の歴史を、約90タイトルの展示作品で表します。貴重な原画、関係資料を、縮尺1/1000の巨大な東京都市模型と映像のコラボレーションとともに展覧します。日・英・仏・中・韓の5か国語による展示や、車いすのための思いやりレーンの設置により、展覧会のバリアフリーを目指します。



©MANGA ⇄ TOKYO Japonismes 2018



「MANGA ⇄ TOKYO」東京都市模型 1



©2018 OPMA All Rights Reserved.

Media Ambition Tokyo 2020 (MAT 2020)

<東京都内各地（メイン会場：渋谷スクランブルスクエア<QWS>、六本木ヒルズ、上野公園）>

令和2年2月28日～3月14日

今年で8回目を迎える Media Ambition Tokyo [MAT] は、最先端のテクノロジーカルチャーを実験的なアプローチで都市実装するリアルショーケースです。六本木を中心に、渋谷、銀座、虎ノ門、台場など、都内各所を舞台に最先端のアートや映像、トークショー等が集結します。

国内外のさまざまな分野のイノベーターや企業が参画することで、多彩なプログラムが都市のあちこちに拡大し、MATはこれらを包括する活動体として成長を続けています。2020年、そしてその先の未来を見据えて移動や通信、情報を含んだ都市システムのありかたが大きく変化している今、都市の未来を創造するテクノロジーの可能性を東京から世界へ提示し、未来を変革するようなテクノロジーアートの祭典を目指します。

-未来を創造するテクノロジーカルチャーの祭典-



※写真はMAT2019のもので

MAT Media Ambition Tokyo

2020.2.28 FRI-3.8 SUN, 14 SAT

SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE QWS,
ROPPONGI HILLS,
UENO PARK and more...

www.mediaambitiontokyo.jp

<共生社会・多文化共生>

アイヌ文化魅力発信プロジェクト～アイヌが歩む。アイヌと歩む～

<民族共生象徴空間(ウポポイ)、北海道各地ほか> 令和元年11月～令和2年10月頃

イランカラプテ！

令和元年度は、多くの訪日外国人が集まる主要空港等において、アイヌ文化の魅力を多言語によって戦略的に発信するリレー展示を開催します。

令和2年度は、民族共生象徴空間(ウポポイ)や北海道各地の主要施設において、アイヌ文化を国内外に発信する大規模な事業を計画中です。



2020 東京大会・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル —2020 グランドオープニング—

<びわ湖大津プリンスホテルほか> 令和2年2月7日～9日

「日本人と自然」を障害者の視点を通じて国内外に発信する、文化芸術フェスティバルのグランドオープニングイベントです。障害者の芸術表現、そして障害者が自身の特性とともに生きる様には、日本人が縄文時代から持つ、四季折々の天然の色彩、音の風情を慈しむ心が強く表現されています。また、本フェスティバルは、厚生労働省及び全国50万人が連携し行い、全国展開します。



木村 茜「お線香花火」/Akane Kimura "Senko Hanabi (Sparkler)"



木村佑介「仏像」/Yusuke Kimura "Statue of Buddha"



訪日外国人等を対象とした「表現活動を生み出す豊かな風土体験プログラム」